

陽気だより

養徳社

検索

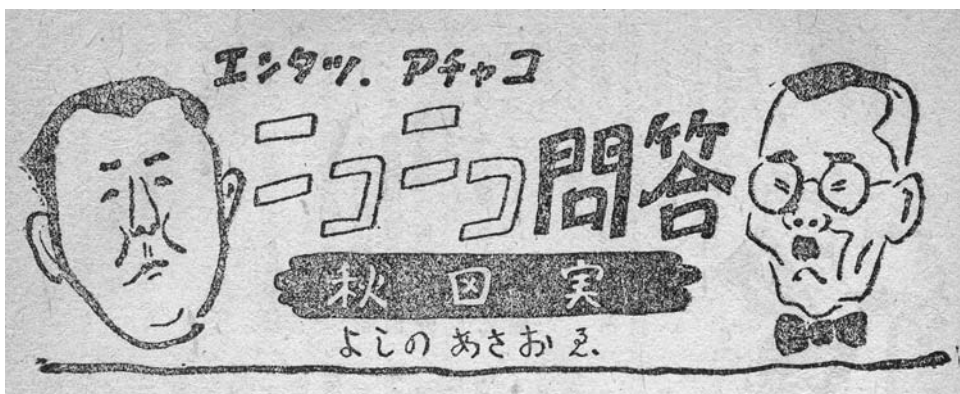
ホームページからご覧いただけます

No. 42

2010.9.15

第5号 (24年9月号) から

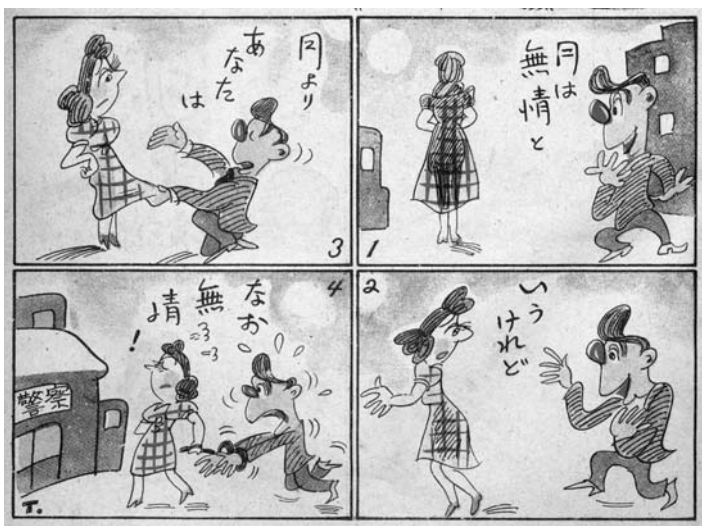
『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



エンタツ 流石に、八月と言
うと、堪らん。夏と言
うだけ。アチャコ 随分、蒸し暑いこ
とやないか。

アチャコ そうやろうな。
エンタツ おい、分かつてる
のか。僕は、蒸し暑いなアと
言ってるのやで。
アチャコ さあ、虫も暑いや
ろうが、人間も暑いですね！
エンタツ おい、判然してく
れ。人間が暑いのをムシ暑い
と言うのやないか。
アチャコ 最近ではね。……
エンタツ 嘘つけ、昔からや。
アチャコ しかし、夏は何故、
こんなに暑いのか？
エンタツ え、夏は何故？
アチャコ その理由を色々
調べて見るとー
エンタツ 何で、こんなに暑
い？
アチャコ それはー誰にも言
うな。
エンタツ 言えへん。何でや。
アチャコ 寒暖計の温度が上
がるからですわ！
エンタツ 寒暖計が？ 何で
そんなこと、他人に言うたら
あかんのや？
アチャコ 言うたら、笑われ
る。
エンタツ 当たり前や、余り
僕も笑わさんといてくれ。ー

少しお腹を壊してるんやから。
エンタツ お腹を？ 着物を
着てるから、外側からは壊れ
てるのが一寸も見えんけど。
アチャコ そんな阿呆な、裸
になったかて見えるかいな。
お腹を壊したと言うのは、つ
まり、お腹が通ってるのや。
エンタツ 成程、道理で顔色
が青い。
アチャコ 顔色で分かるか？
エンタツ 分かるとも。青な
ら、誰でも通る！
アチャコ 青なら？ おい、
交通信号とお腹の話が一緒に
出来るか？
エンタツ 出来る
とも。傍で見てて
ハラハラする。
アチャコ じゃ、
黄の信号は、どう
解釈する？
エンタツ 病気で、
顔が黄色になるの
は何や？
アチャコ それは、
黄疸と違うか。
エンタツ その通
り。だから、信号
が黄色の時は横断
に注意！
アチャコ よう言
わんわ。そんなら



赤は？
エンタツ 勿論、赤はストッ
プ。早く通るのを止めんとア
カン。生命にかかわる。
アチャコ どんな病気や？
エンタツ 分らんか、それ
は、これから夏に多い赤痢。
アチャコ そら、下らん物を
喰うからや。
エンタツ でも、下らん物を
喰うたのに下るとは、これ如
かに？
アチャコ そんなこと知らん
がな。
(後略)

信仰例話 (道友社刊『真実の道』より)

奇蹟

不思議な御守護、奇蹟を見せて頂くということは、教祖様時代も今も、何も変りはありません。

奇蹟とは神様が入り込まれるということですが、

しかし取次ぐ者が、日々取次ぐ話と行いとが反対では神様の入り込みはありません。人に一夫一婦の理とか、禁酒とか朝起の事を説きますが、説く自分が、他に女をこさえたり、酒呑みであったり、朝寝坊であったりしては、神様は、うそをついしょ、これくらいと仰せられます、入り込んで下さる道理がありません。常に教理と行いとを外して居つて



は神様のお入り込みがありません。奇蹟を見せて頂くには、教

す。

よく人は、教祖雛型万分の一ということ言いますが、土佐(卯之助)先生は、そんな万分の一位の了簡ではないけん、われくは、教祖雛型とまでは行かないが、せめて三分の一分、二分の一分の覚悟で行かねばならん、と絶えず聞かして下さいました。

(柏原源次郎 講話)

教理以上のもの

書いたもの読んだだけ、耳できいただけではこの道つかない。

もし、それで道がつくようであったら、本こしらえて読んでいたら、それでよいのや蓄音機の盤に吹きこんで、聞いてたらそれでよい。布教師も教会もいらん。

ひながたという理が重いのである。

(梶本宗太郎 講話)

そよ風のように やさしく 手元に届けたい

アナタへの手紙

信仰のこと 社会のこと そして人生のこと

吉澤 讓 著

(新津分教会前会長・新潟教区長)

四六判並製 224頁
定価=1155円(税込) 〒200

図書出版 養徳社

天理市川原城町388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

「陽気」創刊60年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260円(税込) 送料200円

「陽気」創刊60年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—
天理教の歴史とともに
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680円(税込)
(高安大教会初代会長) 送料200円

「陽気」創刊60年記念出版

お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52話

朝席・夕席に最適です

定価=1,260円(税込) 送料200円

養徳社 よもやま話

この夏、知人の娘さんの嫁ぎ先の教会へ夫婦でお邪魔しました。ところろは長野県諏訪湖畔。夜、長野の珍珠で歓待していただきました。馬さし、鯉のあらい、ワカサギのフライ、おいしーい！ 次……？？ 私はお皿に釘付けになりました。蜂の子！ 蚕のさなぎ！ イナゴの佃煮！ 私は、へびよりも、バツタ・コオロギ・イナゴが苦手なんです。そのイナゴが目の前に……にらめっこが続きました。主人が横を向いたすきに、一匹、一匹、横のお皿へ。しかし、せっかくの長野の珍珠を一匹も食わずには帰れないだろう——と主人。意を決して、蜂の子、蚕のさなぎ、なんとかOK。イナゴ！ かんべんして、ウー、おもいきって目をつぶって口の中へ……カプカプとかみ、ビールで流し込みました。イナゴを食べた！ 食べてしまったあゝ。心と身体が分離したような気分でした。ニツと笑うと、歯のすきまから、細い足が覗いていた、……というのは冗談です。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。お願いします、お願い申し上げます。

養徳社